

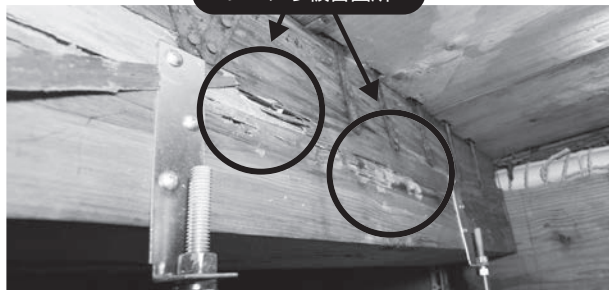
剤が用いられました。しかしながら、それらは薬効期間が比較的短く、定期的な保守が必要であることが課題として挙げられていました。

今回の阿弥陀堂御修復工事に關しては、あらためて防蟻・防腐において建物の長期保全性が期待できるより良い防腐剤を探していたところ、これまでの有機溶剤系と異なる、無機質のホウ素系木材保存剤があることが分かり、それが従来の溶剤の課題を解消するものであることが判明しました。このため、京都府の文化財保護課や御修復の技術専門員の先生方の確認を得て、阿弥陀堂でこの新たな溶剤を用いることとなりました。

この溶剤は有機溶剤系と比較して日本国内での実績がなく新しいものでしたが、天然鉱物の



シロアリ被害箇所



溶剤を噴射する作業の様子

「ホウ酸」を主原料とするものであるため雨にあたらない限り効果は半永久的で、再施工も不要となる点で画期的でした。

ホウ酸といえば、ゴキブリ対策の「ホウ酸団子」が思い出されますが、人体には影響を及ぼさない安全な鉱物で、目薬の原料や小学校では理科の実験にも使用されています。また、排泄

器官の腎臓を持たない昆虫たちは機能障害をさけるために本能的にホウ酸を含むものを食べることはありません。したがって、ホウ酸が浸透することによって昆虫が柱や板などの木造建築物を食べることはなくなり、野外の落ち葉や枝を食べて生きていくようになります。ホウ酸処理は、自然界の生き物と伝統木造

建築物が共存するための境界線をつくるものといえます。

この防蟻・防腐工事はさらに木部が燃えにくくなる難燃の効果も副次的に得られることもあり、床下部の保全のみならず、阿弥陀堂全体の長期保全性にも寄与することが期待されます。



# 御修復のあゆみ ↳ 伝承された先達の願い

阿弥陀堂防蟻・防腐工事 — 人や環境にも配慮する —



現在の阿弥陀堂の様子



阿弥陀堂の床下部

阿弥陀堂御修復工事の終盤となる阿弥陀堂床下のシロアリ被害や木材腐朽菌に対する防蟻・防腐工事を行いました。目の届きにくい床下の木部の大半において健全な状態が保たれていましたが、一部、シロアリによる損傷が見られました。

従来、建築物におけるシロアリ防止や腐朽防止のための対策としては、一般住宅から国宝文化財修理まで有機溶剤系の防腐剤を用いるのが一般的であり、御影堂御修復においても、その他の防腐剤の性能を確認した上で、従来型の有機溶剤系の防腐